

厚生常任委員会 行政視察報告書

厚生常任委員会では、柏市といわき市を行政視察しました。
概要は以下のとおりです。

(実施期間) 令和5年5月15日～17日

(視察都市) 柏市、いわき市

(視察内容) 柏市

- ・ 柏×保育チャレンジの取組について
いわき市
- ・ AIを活用した介護予防

〔柏市〕

柏市では、柏×保育チャレンジの取り組みについて、説明を受けた。

増大する保育需要への対応するため、柏市は、平成27年度に柏市子ども・子育て支援事業計画を策定し、保育施設の整備やきめ細やかな入園案内等、ハード・ソフト両面からの取組を進めてきた。その結果、令和5年4月1日時点において、国基準の待機児童数が9年連続でゼロとなった。一方で、認可保育園等への入園が保留になっている児童の数(入園保留者数)は231人で、前年度より12人増加している。今回視察した、柏×保育チャレンジとは、柏市、柏市私立認可保育園協議会、柏市認定こども園協議会が一体となって取り組む、保育の質の向上や人材確保に関する事業であり、子ども、保護者、園及び自治体が「共に育ち合う」ことを目指すものである。具体的には、実証実験として全国初の取組である“園の「ストーリー」”という形で、各園が日常の保育の様子として写真と共にホームページにアップし、保育の中身を“見える化”を行った。

委員からは、保護者や外部からの反応はどうだったか、ホームページアクセス数を増やした具体的方法はどのようなものがあったかなどの質問が出された。



(柏市での視察風景)

〔いわき市〕

いわき市では、A I を活用した介護予防について説明を受けた。

いわき市においては、令和4年時点で市全体の高齢化率が31.3%となっている。2040年には、団塊ジュニア世代が65歳を迎え、要介護リスクが高まる後期高齢者人口は増加する一方、生産年齢人口は減少し続け、2015年に1人の後期高齢者を生産年齢人口4.1人で支えられているところが、2060年には1.4人で支えることになるとされている。また、要介護認定の出現率を年度別推移でも、平成23年度から平成28年度までは高齢者数が急増し、現在はピークアウトしたものの、認定者数は増加し続けている。このような中、いわき市では医療・介護・福祉データと連携したA I の活用により、要介護状態になるおそれのあるハイリスク者を効率的に抽出し、地域包括支援センター等による個別訪問・アセスメントを通して、早期にハイリスク者を把握し、効率的かつ効果的なアウトリーチ活動を実施し、速やかに必要な支援につなげている。

今後も事業を継続し、高度なハイリスク者の抽出につなげるために、統計データのバリエーションを増やし、より深い分析を行うこととし、また、将来的には、このデータを用いて、介護予防事業（政策）の立案や見直しにつなげることを目標としている。

委員からは、A I を活用することになった経緯や、A I に学習させる具体的な項目内容、また個人情報の扱いについての質問が出された。



（いわき市での視察風景）